

早稲田大学 文学研究科
修士課程 入試問題の訂正内容

<2023年度 一般入試 現代文芸コース>

【専門科目】

●問題冊子1・2ページ : I およびII 1行目

(誤)

以下の設問(共通問題)に答えない。

(正)

以下の設問(共通問題)に答えなさい。

●問題冊子1ページ : I 本文8行目

(誤)

エドワード・サインデンステッカー

(正)

エドワード・サイデンスティッカー

●問題冊子1ページ : I 本文11行目

(誤)

『現実物語』

(正)

『源氏物語』

早稲田大学 文学研究科
修士課程 入試問題の訂正内容

<2023年度 一般入試 現代文芸コース>

【専門科目】

●問題冊子1ページ : I 本文14行目

(誤)

～わかりやすい。

(正)

～分かりやすい。

●問題冊子1ページ : I 本文14行目

(誤)

「馴化」というのは、外国語のテキストに現れる・・・

(正)

「馴化」というのは、外国のものをわかりやすく、翻訳
先の言語環境に適応させる方向、「異化」は、外国語の
テキストに現れる・・・

※下線部を追加

早稲田大学 文学研究科
修士課程 入試問題の訂正内容

<2023年度 一般入試 現代文芸コース>

【専門科目】

●問題冊子2ページ : II 本文1行目

(誤)

何ヶ月

(正)

何五月

●問題冊子2ページ : I 本文2行目

(誤)

～のしかつてくる…

(正)

～のしかかつてくる…

●問題冊子2ページ : I 本文4行目

(誤)

———何より…

(正)

———何よりも…

以上

2023 年度
【修士課程】

早稲田大学大学院文学研究科
専門科目 現代文芸 コース

入学試験問題
※解答は別紙（横書）

I 以下の設問（共通問題）に答えない。

【設問】 以下の文章を読み、日本文学や外国文学から2つ以上の作品の原文とその訳文を具体例として取り上げ、翻訳における「馴化」と「異化」に関する自分の理解について論ぜよ。

これらの二つのケースと、日本における古典新訳のいくつかの例を合わせて考えると、翻訳研究上、興味深い対照的な傾向が見て取れる。亀山訳のドストエフスキーがより「読みやすく」(readable)、「読者に親しみやすい」(reader-friendly) 方向で翻訳の現代化を目指したのに対して、ピヴィア、ヴォロホンスキーは、すでにガーネット訳によっていったん達成されていた「読みやすさ」に挑戦し、より「読みにくい」けれども原文の味を伝える新しい訳を目指した。『キャッチャー』のロシア語訳の場合もほぼ同じことが言える。（中略）

このような、古典を単に読み易い翻訳で読むのではなく、より原文のコンテキストに忠実な翻訳でも読もうとする傾向は、『源氏物語』の主要な英訳の変遷にも見て取れる。アーサー・ウェイリーに始まって、エドワード・サインデンステッカー、ロイヤル・タイラー、そしてデニス・ウォッシュバーンに至るまで、錚々たる東洋学者・日本学者たちが競い合うようにこの巨大な作品を英訳してきたが、最初の三つの訳の流れを見ると、『源氏物語』の英訳はおおむね、学問的正確化・忠実化の方向に向かってきた。ところが、最新のウォッシュバーン訳は学問的厳密さと読みやすさ・明晰さを結合しようとしており、『現実物語』の英訳は新しい段階に入ったと言えるだろう。（中略）

これまで見てきた傾向は、翻訳理論家のローレンス・ヴェヌーティが好んで使う用語を借りて言えば、「馴化、同化」domestication と「異化」foreignization という用語を使って考えるとわかりやすい。「馴化」というのは、外国語のテキストに現れる異国的要素を残して翻訳先言語に盛り込む方向である。どんな翻訳も、百パーセント「同化」であったり、百パーセント「異化」であったりするわけではなく、むしろその二つの方向性の微妙なバランスが問題になるのだが、ドストエフスキーに関して言えば、亀山訳は同化の方向、ピヴィア、ヴォロホンスキーは異化の方向を向いているということになる。

（沼野充義『世界文学論』作品社、2020 年）

Ⅱ 以下の設問（共通問題）に答えない。

【設問】 以下の文章を読み、下線部にある「注意力の訓練」が、文学においてどのような役割を果たし、いかに重要なのかについて、具体的な作品や作家名をあげて論じなさい。

人間の生活において何より大切なことは、何年もの間――何ヶ月でも、あるいは何日間でも同じことだが――生活の上に重くのしかってくるいろいろな出来事ではない。今の一分間が次の一分間にどんなふうにつながっているかというつながり方が大切なのである。そして、一分また一分と、このつながりを実現して行くために、――各人のからだと心とたましいにおいて、――何より注意力の訓練において、どれだけの努力がついやされたかが大切なことなのである。

もし、このわたしが小説を書くとしたら、今までにないまったく新しいものをつくり出していることだろう。

（シモーヌ・ヴェイユ『工場日記』田辺保訳、ちくま学芸文庫、2014年）

Ⅲ 下の1から15の設問事項から5項目を選び、それぞれについて200字以内で説明せよ。
記入は順不同でもよいが、設問項目番号は回答欄左上の空欄に明記すること。

- 1 金子みすゞ
- 2 アイザック・バシェヴィス・シンガー
- 3 高行健
- 4 グギ・ワ・ジオンゴ
- 5 クラリッセ・リスペクトル
- 6 クロード・レヴィ＝ストロース
- 7 シルヴィア・プラス
- 8 『巨匠とマルガリータ』
- 9 『赤と黒』
- 10 『真夜中の子供たち』
- 11 『月に吠えらんねえ』
- 12 『花様年華』 (In the Mood for Love)
- 13 環境文学
- 14 当事者研究
- 15 ポリフォニー

———これより先の余白には絶対に記入しないこと———

II ———ここから記入すること———

(裏へ続く)

————これより先の余白には絶対に記入しないこと————

III ————ここから記入すること———

設問番号()

This image shows a full page of blank graph paper. The grid consists of small, uniform squares formed by thin black lines. There are approximately 20 columns and 18 rows of squares across the entire page. The margins are consistent on all sides.

設問番号()

A full-page view of a blank sheet of white graph paper. The grid consists of small, uniform squares formed by thin black lines. There are 20 columns and 18 rows of squares, creating a total of 360 square units. The margins are consistent on all sides.

(裏へ続く)

